

足立区議会議長 伊藤 のぶゆき 様

足立区議会議員 19番 中島 こういちろう 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行政区分	質問の要旨
1 一般行政	<p>【1】 区長の政治姿勢について</p> <p>近藤区長はこれまで、入学準備金の支給をはじめ、子どもの貧困対策、体験格差の解消、そして「おいしい給食」の推進など、子ども・子育て支援においても、他自治体に先駆けた施策を数多く進めてきた。</p> <p>これらの取組は、子育て世帯の経済的負担を軽減するだけでなく、子どもたちの学びや健やかな成長を支え、保護者にとっても「足立区で子どもを育てたい」と思える大きな要素になっているものと考えられる。</p> <p>今は、自治体の政策によって人の流れが変わる時代である。子育て支援、教育、住環境、地域の魅力など、自治体間の政策の差が、まちの将来を左右する時代でもある。</p> <p>足立区においても、これまで積み重ねてきた子育て施策により、子育て世帯からも「選ばれるまち」としての評価が高まりつつあるものと考えられる。人口増加や子育て世帯の流入が進んでいる今だからこそ、この流れを一過性のものにとどめるのではなく、足立区で生まれた子どもたちが、足立区で育ち、このまちに愛着を持ち、将来も住み続けたいと思える好循環につなげていくことが重要である。そのためには、就学前から小中学校、さらには地域における文化・スポーツ・体験・交流まで、切れ目のない子育て・教育施策をさらに充実させるとともに、「足立区で子育てする価値」を区内外に分かりやすく引き続き発信していく必要がある。そこで伺う。</p> <p>これまで区長が進めてこられた子ども・子育て施策の成果について、区長自身はどのように受け止めているのか。また、自治体間競争の時代において、足立区が子育て施策のトップランナーとして、さらに選ばれるまちとなっていくために、足立区で生まれた子どもたちがこのまちに愛着を持って育つよう、今後どのような施策展開を考え、推進していくのか、区長の見解を伺う。</p>
	<p>6月16日 午前・午後 9時00分受付 質問時間 25分</p>

行政区分	質問の要旨
2 子ども家庭行政	<p>【2】もっと子育てしやすい足立区へ（保育行政について）</p> <p>足立区では、これまで「足立区待機児童解消アクション・プラン」に基づき、保育施設の整備や多様な保育サービスの充実に取り組み、保育園の待機児童解消、そして保育の質の向上に向けた施策を進めてきた。</p> <p>その中で、東京都による第1子の保育料無償化支援の開始や、国における「出生後休業支援給付金」、育児のために時短勤務を選択した場合の収入減を補う「育児時短就業給付金」の創設など、子育て世帯を取り巻く制度環境は大きく変化している。こうした制度改正は、子育て家庭を支える重要な取組である一方で、復職時期や保育ニーズの表れ方にも影響を与えている。その結果、令和8年度の保育施設の待機児童数は106名と大きく増加した。これは足立区のみならず、町田市や世田谷区など東京都内の他自治体でも同様の傾向が見られると認識している。</p> <p>また、足立区内においても、待機児童が発生した地域とそうでない地域に差があり、特に綾瀬や六町地域における対策は喫緊の課題である。今後は、単に保育定員を増やすだけでなく、地域ごとの保育需要、年齢ごとのニーズ、保護者の働き方の変化を今まで以上に丁寧に把握し、既存の保育資源を最大限活用しながら、きめ細かな待機児童対策を進める必要がある。そこで以下、区の見解を伺う。</p> <p>①今年度の待機児童数の増加を足立区はどのように分析しているのか。また、保育ニーズの地域偏在や年齢ごとの需要に対応するために次年度以降の保育需要に対し、どのような方針で対応していくのか。特に既存施設の新設は3～5歳の空きを助長することにもなってしまうため、小規模保育室の増設を中心にしてはどうか。</p> <p>②一部幼稚園の活用を行うことは、待機児童の解消に起因する取り組みに繋がるとも考える。東京都の制度も積極的に活用し幼保関係なく、待機児童の解消に向けて全力で推し進める必要があると考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>③今年度の待機児童の発生を受け、次年度以降に保育園入園を検討している保護者から、一部不安の声も上がっている。保育園入園を希望する保護者に対しては、早い段階から、保育サービスの選択肢、申込時期、地域ごとの入園状況などを分かりやすく伝えることが重要であると考えます。次年度の待機児童解消に向け、保護者への啓発や情報発</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質 問 の 要 旨
	<p>信をどのように強化していくのか、区の見解を伺う。</p> <p>④ 保育施設において、特にこれから夏場にかけては、猛暑により園庭や屋外で遊ぶことが難しくなる日が増えることも想定される。現在、東京都では「子供と子育て家庭の熱中症予防支援事業」を進めており、保育所等においても、1施設あたり上限100万円の助成を受けられる制度がある。既に園長会などで周知を進めていると認識しているが、より多くの園がこの制度を活用し、子どもたちを暑さから守る取組を推進すべきと考える。区として、制度の周知と活用促進をどのように進めていくのか、区の見解を伺う。</p> <p>⑤ 「こども誰でも通園制度」が今年4月からスタートした。在宅で子育てをしている家庭の孤立防止や、子どもの育ちを支える観点から、重要な制度である。一方で、実際の利用にあたっては、受け入れ体制、利用者への周知、保育現場の負担など、整理すべき課題もあると考える。足立区における現在の利用状況と課題、今後の改善に向けた対応方針について伺う。</p> <p>【3】 こどもたちの放課後の居場所に関して（学童保育政策について）</p> <p>共働き家庭やひとり親家庭の増加により、放課後の子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所への需要は年々高まっている。とりわけ学童保育室は、保護者の就労を支えるだけでなく、子どもたちの放課後の生活や成長を支える重要な役割を担っている。</p> <p>足立区においても、学童保育室の待機児童対策は喫緊の課題であり、受け入れ定員の拡大という「量」の確保と、子どもたちが安心して豊かに過ごせる環境づくりという「質」の向上を、同時に進めていく必要がある。</p> <p>これまでも足立区は、認証学童クラブ事業の活用、学校施設の更なる活用、既存施設の定員拡大など、待機児童解消に向けた取組を進めてきた。一方で、地域によっては、なお待機児童が解消されておらず、引き続き地域の実情に応じた対策を進める必要がある。</p> <p>また、学童保育の質を支えるためには、放課後児童支援員の人材確保や処遇改善、長期休暇中の昼食支援など、保護者と現場双方の負担軽減につながる取組も重要である。そこで以下、区の見解を伺う。</p> <p>① 学童保育室の待機児童解消に向け、区は現在の課題をどのように分析しているのか。特に待機児童が多い地域においては、これまでも繰り返し求めてきた認証学童クラブ事業を積極的に活用し、足立区内</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質問の要旨
3 教育指導行政	<p>での学童保育室の整備をさらに進めるべきと考える。学童保育の「量」と「質」の確保に向けた今後の方針について、改めて伺う。</p> <p>②長期休暇中の昼食対応については、保護者の負担軽減だけでなく、猛暑時の食中毒リスクを軽減する観点からも重要である。長期休暇期間中のお弁当の配食システムについては、過去の会派の代表質問においても繰り返し質疑を重ねてきた。現在、一部の学童保育室で実施されているが、区は現在の実施状況と課題をどのように把握しているのか。また、未実施の学童保育室も含め、今後、区内全室展開に向けてさらに推進すべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>③ 学童保育の「質」を更に高めるためには、放課後児童支援員の確保と定着が不可欠である。保育分野と同様に、学童保育の現場でも人材確保は大きな課題であり、職員が安心して働き続けられる環境整備が求められている。東京都の住居借り上げ支援や、キャリアアップ補助金等を積極的に活用し、学童職員の処遇改善を進めるべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>④ 放課後子ども教室と学童保育室の連携については、本年4月からモデル校3校において、運営事業者を一体化する形で取組が進められている。子どもたちにとっては、放課後の過ごし方の選択肢が広がるとともに、保護者にとっても、より安心して子どもを預けられる環境づくりにつながり感謝の声も多く届いている。</p> <p>一方で、実際の運営にあたっては、学童保育室と放課後子ども教室の役割分担、利用する子どもたちの安全管理、学校との連携など、整理すべき課題もあると考える。そこで、モデル校におけるこれまでの取組の効果と、見えてきた課題を区としてどのように分析しているのか。また、今後さらに連携を行う実施校数を広げるべきと考えるが、どのような観点が必要か、区の見解を伺う。</p> <p>【4】学校と若者の居場所に関して</p> <p>学校は、子どもたちが学ぶ場であると同時に、地域の中で最も身近で、安全性の高い公共施設でもある。特に近年の猛暑や、台風・大雨などの荒天時において、学校施設やオンライン環境をどのように活用し、子どもたちの安全と学び活動を守っていくかは、今後ますます重要になる。</p> <p>また、夏休み期間中や放課後の子どもの居場所づくりに加え、中高</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質問の要旨
	<p>生をはじめとした若者が安心して過ごし、相談や交流ができる居場所づくりも重要な課題である。学校施設、地域資源、区有施設を効果的に組み合わせながら、子ども・若者の居場所と学びの環境を総合的に整備していく必要がある。そこで以下、見解を伺う。</p> <p>①6月初旬、日本各地に大きな影響を及ぼした台風6号では、東京でも6月としては観測史上最多となる12時間降水量173.5ミリを記録した。各自治体では、臨時休校とする地域や、登校時間を遅らせる地域など、対応に大きな差が見られた。そうした中、足立区では早期にオンライン授業の実施を判断し、保護者からは「早めに方針が示されて安心した」「子どもを無理に登校させずに済んだ」など、評価する声が多く寄せられていた。この判断は、子どもたちの安全確保と学びの継続を両立する上で、大変意義のある対応であったと評価する。今回、足立区が事前にオンライン授業の実施を判断できた経緯について伺う。また、実際にオンライン授業を行った後、保護者、児童・生徒、学校現場からどのような声が届いているのか伺う。</p> <p>また、今回の対応では、台風通過当日の午前6時時点で、警戒レベル4以上の場合は休校、レベル3以下の場合はオンライン授業とするなど、一定の線引きが行われていた。今後も台風や大雨、大雪などの荒天時に迅速かつ適切に判断できるよう、オンライン授業を実施する際の判断基準をあらかじめ整理しておく必要があると考えるが、見解を伺う。あわせて、今回は多くの教員が学校へ登校し、オンライン授業の対応を行ったと聞く。</p> <p>しかし、荒天時には児童・生徒だけでなく、教職員の安全確保も重要である。今後は、教員が必ずしも学校に登校しなくても、自宅等からオンライン授業を実施できるよう、サービス上の取扱い、安全管理の考え方、運営方法のあり方も含め、事前に整理しておく必要があると考えるが、見解を伺う。</p> <p>②近年の猛暑を踏まえると、夏休み期間中に子どもたちが安全に過ごせる居場所を確保することは重要である。特に夏場は、暑さや熱中症警戒アラートの発表により、屋外で遊ぶ機会が限られる日も増えている。そのため、夏休み中も体育館などの学校施設を活用し、子どもたちが安全に身体を動かせる環境を確保するとともに、安心して過ごせる居場所づくりを進めるべきと考える。</p> <p>一方で、学校を夏休み期間中に開放する際には、人員確保や安全管理が課題となる。そこで、学童保育室と放課後子ども教室の連携を進</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質問の要旨
4 都市建設行政	<p>めているモデル校においては、夏休み期間中も体育館や図書館などを活用し、子どもたちが安心して身体を動かし、過ごすことができる環境を整える必要があると考えるが、見解を伺う。</p> <p>【5】公園の更なる活用に関して</p> <p>公園は、子どもたちの遊び場であるだけでなく、地域の交流、健康づくり、防災、にぎわい創出など、多様な役割を担う重要な公共空間である。足立区では、パークイノベーションの取組などを通じ、公園の魅力向上を進めてきた。</p> <p>一方で、今後は公園施設や樹木の安全管理をさらに徹底するとともに、地域ごとのニーズに応じた活用を進めていく必要がある。特に、ボール遊びができる機能の確保、ドッグランの整備、キッチンカーを活用したにぎわいづくりなど、区民から寄せられる公園への期待は多様化している。公園をより安全で、誰もが使いやすく、地域に親しまれる空間にしていくため、以下伺う。</p> <p>①都内各地で樹木の老朽化等に伴う倒木事故が報じられている。足立区の公園においても、植栽から長い年月が経過した樹木があり、倒木や枝折れなどのリスクに対する適切な管理が重要である。</p> <p>近年の台風や大雨、猛暑などを踏まえれば、樹木の状態をよりの確に把握し、事故を未然に防ぐ管理体制が求められる。</p> <p>今後、区として公園樹木の点検・管理体制をどのように強化していくのか、見解を伺う。また、樹木台帳やデータを活用し、老木化や危険木の状況を的確に把握した上で、計画的な剪定・伐採・更新を進めるべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>②東綾瀬公園では、定期的に犬を連れて集まる団体があり、地域の中で愛犬家同士のコミュニティも生まれている。こうした団体からは、現在の交流の場としての利用にとどまらず今後、ドッグランとしての体制整備を検討してほしいとの声も寄せられている。</p> <p>一方で、区内各地からもドッグラン整備を求める声が寄せられている。犬を飼っている方とそうでない方の双方が安心して公園を利用できるよう、ルールづくりや管理体制も含めた検討が必要である。東綾瀬公園における今後のドッグラン整備に向けた調整はどうか。また、新田地域における新たなドッグラン整備について、現在の検討状況と今後の方針を伺う。</p>

行政区分

質問の要旨

③ 公園の魅力を高める取組の一つとして、キッチンカーの出店がある。普段から利用する公園で、軽食や飲み物を楽しめる環境を整えば、滞在時間の延長や親子連れ・高齢者の利用促進にもつながり、公園のにぎわい創出にも資するものと考ええる。

現在、足立区では「ピクニック・ラボ in しょうぶ沼公園」として、キッチンカーの出店を通じ、公園活用のルールや運営方法を検討している。この取組は、公園の新たな活用可能性を探る重要な試みであり、今後は地域の実情に応じて他の公園にも展開していくべきと考ええる。

また、足立区内には地域で活動するキッチンカー団体も存在する。公園でのキッチンカー活用や各種イベントにおいては、地元事業者や地域団体とも連携し、地域経済の活性化や災害時の連携にもつながる仕組みとして育てていくべきと考ええる。

今後、キッチンカーを活用した公園のにぎわいづくりをどのように展開していくのか。また、地元事業者や地域団体との連携をどのように進めていくのか、区の見解を伺う。

④今年完成した千住関屋ポンプ場については、今後、堤防整備が完了した後、その上部空間が足立区に移管される予定である。当該地域においては、過去に近隣の千住大川端地区にフットサルコート等が整備されていた経緯もあり、ボール遊びができるスペースの確保を望む地域住民の声も少なくない。特に千住常東地域では、現在、荒川土手沿いのグラウンド以外に、子どもたちがボールを使用できる公園や広場が限られている状況である。

こうした地域の実情を踏まえ、千住関屋ポンプ場の上部空間については、子どもたちが身近な場所でボール遊びができる公園・広場として整備を進めるべきと考ええるが、区の見解を伺う。

5 産業経済行政

【6】産業支援に関して

ナフサ等の原材料不足や価格高騰の影響は、建設、製造、医療、介護、保育など、区民生活を支える幅広い現場に及んでいる。

区内中小事業者においては、資材や物品の調達が難しくなっていることに加え、価格転嫁が十分にできず、経営を圧迫しているケースもある。足立区では、今回の第2号補正予算において、介護・障がい福祉事業所や幼稚園・保育園等に対する支援を行うとともに、緊急経営資金融資の内容を一部見直し、厳しい経営環境に置かれている事業者への支援を進めている。

一方で、アメリカとイランが戦闘終結に向けた「覚書」に合意した

行政区分

質問の要旨

との報道（6/15 時点）もあり、今後、ホルムズ海峡が開放される可能性も示されている。

しかし、過去の経緯を踏まえれば、今後の動向は依然として不透明である。また、仮にホルムズ海峡が開放されたとしても、ナフサや石油関連製品が安定的に供給されるまでには、一定のタイムラグが生じることも想定される。こうした状況を踏まえ、区内事業者や区民生活を支える現場への影響を継続的かつ丁寧に把握し、必要に応じて機動的に追加の支援策を講じていくことが重要である。そこで以下、区の見解を伺う。

① 今回の第2号補正予算では、中小企業支援として、8月から緊急経営資金融資の上限額を2,000万円から3,000万円に引き上げるとともに、融資申請要件を緩和する方針が示されている。これは、厳しい経営環境に置かれる区内事業者の資金繰りを支える重要な対応であると評価する。

一方で、今後も原材料不足や価格高騰が続く場合には、第二、第三の矢となる追加支援策の検討も必要である。

第3回定例会での補正予算も見据え、8月中旬頃までには新たな施策の必要性を判断すべきと考えるが、区の見解を伺う。また、その際には、金融機関を通じた融資を区内事業者が無利子・無担保に近い形で受けられるよう、区が独自に利子や信用保証料を補助するなど、より踏み込んだ資金繰り支援も選択肢に入れる必要があると考える。

区として、今後の経済状況や事業者の声をどのように把握し、追加支援策の検討につなげていくのか。また、利子補給や信用保証料補助を含めた区独自の金融支援について、どのように考えているのか伺う。

②区発注工事等においても、資材不足や納期遅延など、事業者側の事情を踏まえた工期設定や相談対応が重要である。

ナフサ関連製品をはじめ、物品や資材の調達が困難な事業者に対し、区としてどのようなフォロー体制を整えているのか。

また、資材不足や価格高騰が続く場合、工期や契約上の取扱いなど、どのように柔軟に対応していくのか。熱中症対策と同様に、事業者への周知も必要と考えるが、区の見解を伺う。

【7】区内経済活性化に関して

地域経済を活性化させるためには、区内の既存資源を最大限活かし、

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質問の要旨
6 危機管理行政	<p>区民や足立区に來訪された方々が地域を回遊し、消費や交流につながる仕組みをつくることが重要である。</p> <p>一方で、観光や來訪者の増加に伴う生活環境への影響にも配慮し、にぎわいと安心の両立を図る必要がある。足立区の魅力向上と地域経済、区民生活の安心を考える上で重要なテーマである。そこで以下、区の見解を伺う。</p> <p>① 足立区を代表する一大イベントである「足立の花火」は、3年ぶりの開催が実現した。実際に、多くの区民や観覧された方々から喜びの声が届いており、メディアでも多く取り上げられたと感じている。今回の開催について、区としてどのように振り返っているのか伺う。</p> <p>また、一部では、ルールやマナーを守らない見学者の様子が SNS 等で発信される場面も見られた。来年以降の開催に向けて、観覧マナーの徹底や安全対策、帰宅時の動線確保など、どのような改善を図っていくのか伺う。</p> <p>あわせて、今回の「足立の花火」による経済効果をどの程度と推計しているのか伺う。また、メディア露出の観点も踏まえれば、足立区のブランド向上にも大きな効果があったと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>② 民泊については、観光需要やインバウンドの増加に伴い、地域経済への効果が期待される一方で、違法民泊や騒音、ごみ出し、建物内のルール違反など、住環境への影響を懸念する声も寄せられている。</p> <p>特に千住地域では民泊施設も多く、地域課題への早期対応が必要である。足立区においても、本年5月から立入調査などの取組を進めていると認識しているが、近隣区では民泊規制をさらに強化する動きもある。</p> <p>足立区としても、現行制度の運用強化にとどまらず、必要に応じて条例改正も含め、民泊事業者に対する実効性ある対応をスピード感を持って検討すべきと考える。区として、違法民泊の把握や立入調査、指導・取り締まりを今後どのように強化していくのか伺う。</p> <p>【8】災害対応に関して</p> <p>災害対応においては、計画を策定するだけでなく、実際の災害時に確実に機能するよう、訓練、周知、地域との連携を進めることが重要である。近年は、水害リスクの顕在化や高齢者の増加、ペットを飼育する世帯の増加など、避難対応における課題も多様化している。そこ</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質 問 の 要 旨
	<p>で以下、区の見解を伺う。</p> <p>①足立区では、動物の同行避難について、避難所ごとの整備方針や対応方法の基準をそろえるため、「足立区ペット同行避難ガイドライン」の策定を進めてきた。</p> <p>ペットと暮らす家庭からは、基準整備への感謝の声も届いている。一方で、ガイドラインは策定して終わりではなく、実際の避難所運営の中で機能するかを確認し、課題や改善点を整理することが重要である。区として、ガイドライン策定後、区民や避難所運営関係者への周知をどのように進めているのか伺う。また、今後は避難所訓練の中で、ペット同行避難を想定した訓練も実施すべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>②同行避難については、飼い主とペットが同じ避難所内の別スペースで避難することを前提に整理が進められている。</p> <p>一方で、ペットの性格や健康状態などにより、同行避難では避難所に行くことが難しく、避難をためらう方の声も一部届いている。ペットと暮らす区民の避難を確実に進めるためにも、ペット同伴避難ができる選択肢を一部確保する観点も重要である。</p> <p>墨田区では、動物専門学校と区が連携し、ペット同伴避難が可能な場所を設ける取組が進められている。足立区においても、地域の大学や関係団体等に協力を呼びかけ、ペット同伴避難が可能な施設の確保に向けた働きかけを行うべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>③6月13日未明、京成本線荒川橋梁部水防訓練が実施された。今年で5回目を迎える訓練では、深夜にもかかわらず、都市建設部の若手職員を中心に、これまでの課題を踏まえ、止水板の改良、設置手順の確認、関係者間の連携強化など、実効性を高める取組が進められてきたと認識している。近隣住民からは、5年前に比べ安心感が増したという声も届いている。</p> <p>一方で、訓練を重ねる中で見えてきた課題や、さらに改善できる点もあると考える。今回の訓練の成果と課題、今後の改善方針について伺う。また、京成荒川橋梁周辺の水害対策において最も重要なのは、令和19年度に完成予定とされるかさ上げ工事の着実な進捗である。</p> <p>近隣自治体や関係機関と連携し、工事を確実に進めるとともに、可能な限り前倒しを図ることも必要であると考え、区の見解を伺う。</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質問の要旨
7 都市建設行政	<p>【9】千住地域の更なる発展に向けて</p> <p>足立区の千住地域は、区の南の玄関口であり、かつて日光街道の宿場町として栄えた歴史あるエリアである。江戸時代には、江戸市中と奥州・日光を結ぶ一大拠点であり、物資を供給する問屋街「やっちゃ場」としても賑わった。現在も旧日光街道沿いには当時の面影が残り、昨年の千住宿開宿 400 年を経て、更にその歴史や文化的価値が改めて注目されている。</p> <p>一方、北千住駅を中心に商業施設や大学が集積し、千住大橋駅、関屋・牛田駅周辺では、水辺空間や民間開発を活かした新たなまちづくりも進んでいる。昔から住む地域住民と、新たに移り住んできた住民が共に暮らす中で、新しいコミュニティやまちのつながりも生まれている。今後は、北千住駅周辺だけでなく、千住大橋駅、京成関屋駅、東武牛田駅周辺を含めた千住地域全体の利便性や魅力を高めることが、街全体の価値向上にもつながるものと考えている。そのため、民間開発や東京都との連携も含め、区が千住地域全体の将来像をどのように描き、まちづくりを進めていくのか、以下伺う。</p> <p>① 千住大橋駅前のまちづくりについて</p> <p>現在、千住大橋駅前用地の活用については、本年に入り活用事業者による説明会も開催され、令和 11 年夏の開業に向け、駅前空間がどのように活用されるのか、近隣住民にも少しずつイメージが共有され始めている。</p> <p>千住大橋駅周辺には、既に大型商業施設も立地していることから、駅前用地に求められる機能は、単なる商業機能だけではないと考える。地域住民からは、図書館機能を一部複合化したカフェや、本と触れ合える新しい形の居場所を求める声も上がっている。図書館の貸出・返却や予約本の受け取り機能を民間施設内に設けることは、地域住民の利便性向上につながるものと考えている。</p> <p>民間事業者とも連携しながら、千住大橋駅前の新たな施設に、図書館サービス機能や本と親しめる空間づくりを導入することを検討すべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>また、こうした取組が形になれば、図書館から距離のある地域や、駅前・商業施設など人が集まりやすい場所における新たな図書館サービスのモデルにもなり得る。千住大橋駅前での実施可能性を検討するとともに、他地域への展開も選択肢の一つとして考えるべきではないか、区の見解を伺う。</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質問の要旨
	<p>② 千住大橋駅前の駐輪対策について</p> <p>駅前用地の活用に関する説明会では、近隣住民から駐輪スペースへの不安の声も上がっていた。現在示されている事業者の構想では、駐輪スペースが約20台程度とされており、自転車で買い物や施設利用に訪れた方が、歩道上などに一時的に駐輪してしまうことも懸念される。</p> <p>千住大橋駅前は、駅利用者や近隣住民、商業施設利用者など多くの人が行き交う場所である。開業後の利用実態を見据え、民間事業者とも連携しながら、適切な駐輪スペースの確保や、放置自転車を生じさせない仕組みづくりを進めるべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>③ 千住大川端周辺のまちづくりについて</p> <p>千住常東地域の千住大川端地区では、2030年度の第1期工事完了に向け、まちの姿が少しずつ具体化しようとしている。隅田川沿いの水辺空間は、千住地域の魅力を高め、散歩や通勤・通学、地域の回遊性向上にもつながる重要な公共空間である。</p> <p>一方で、地域からは、水辺の夜間の暗さや歩行環境への不安の声も寄せられている。特に、スーパー堤防のある隅田川の水辺テラスについては、明るく、安全で、誰もが歩いて楽しい空間として整備していくことが重要である。</p> <p>照明環境の改善や歩行者空間の安全性向上について、区としても東京都に積極的に働きかけるべきと考えるが、区の見解を伺う。</p> <p>④ 関屋・牛田駅周辺のまちづくりについて</p> <p>関屋・牛田駅周辺は、京成関屋駅と東武牛田駅が近接する交通結節点でありながら、駅前空間の分かりやすさや滞留空間、周辺地域との回遊性などに課題があると感じている。また、令和6年度に近隣住民から提出された「京成関屋・東武牛田駅周辺地域の街づくりに関する請願」は、全会派の賛成により採択された。こうした地域の声を踏まえ、駅前道路の設計や周辺空間のあり方についても、必要に応じて見直しや改善を検討することが重要である。</p> <p>先日、関屋の里プチテラスでアウトリーチ型のオープンハウス型意見交流会が開催され、当日は多くの人で賑わっていたと聞いている。そこで、意見交流会では地域住民や駅利用者からどのような声が寄せられたのか伺う。また今後は、駅利用者の利便性向上だけでなく、歩行者の安全性、踏切に関する課題、地域のにぎわい創出も含め、関屋・牛田駅周辺の駅前まちづくりを進める必要がある。</p>

	19番 中島 こういちろう
行政区分	質問の要旨
	区として、関屋・牛田駅周辺の現状をどのように認識し、今後どのような方向性で検討を進めていくのか伺う。